

わ く わ く

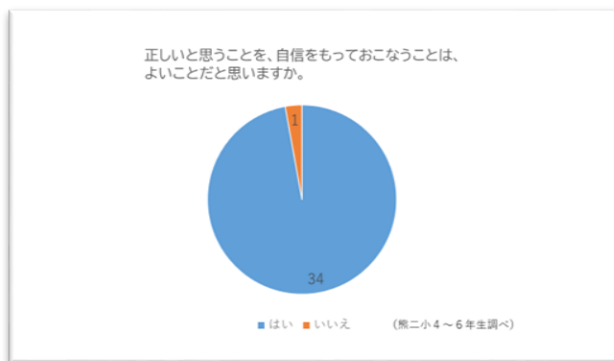
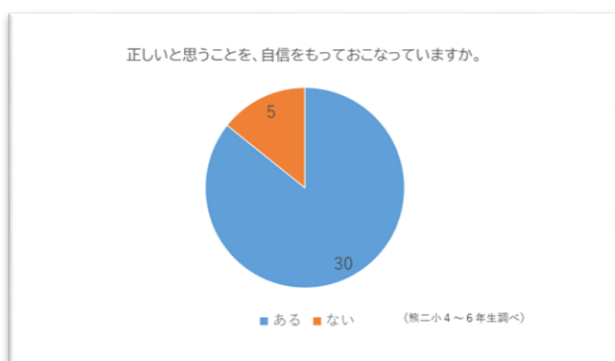
WAKU WAKU

熊野で一番小さなクラスの一番大きな挑戦

正しいと思うことを、自信をもって

～道徳研究大会から～

11月22日(金)に行われた「広島県小学校道徳教育研究大会」で、4年生が公開したのは、「ドッジボール」というお話を通して、「自分が正しいと思うことを、自信をもっておこなうことの「よさ」とは何か」について考える授業でした。



授業でまず提示したのが、事前に熊二小の4～6年生に行ったアンケート結果のグラフです。「正しいと思うことを、自信をもっておこなうことは、よいことだと思いますか」の問いについて、35人中34人が「はい」と答えていました。一方で、「正しいと思うことを、自信をもっておこなっていますか」の問いに対して、「はい」と答えたのは、35人中30人でした。この結果から、ほとんどの子供が頭ではよいことだと分かっているにもかかわらず、いざ行動すると躊躇してしまう子供も少なくないということがわかります。これは、子供に限らず、日常生活においては大人でも実践が難しいテーマだと思います。



次に、「ドッジボール」というお話を読みました。お話は、ある4年生のクラスの子供たちが、休憩時間にドッジボールをして遊んでいたときに起こった出来事です。いく子さんの投げたボールが一郎くんの足に当たります。いく子さんや近くで見ていた明くんは“アウト”だと言いますが、一郎くんは“当たっていないからセーフ”だと主張します。そうこうしているうちに、周りの幸太くんや信二くんたちまで“一郎くんはセーフだ”と言い始めます。＝続く＝